

ファシリテーション各論Ⅰ

—会議・話合いに活用するファシリテーション—

教育ファシリテーション研究所/星槎大学大学院

教育学博士/言語聴覚士

三田地 真実



独立行政法人教職員支援機構

ファシリテーション動画の全体構成

1. ファシリテーション総論
2. ファシリテーション各論Ⅰ **（本動画）**
（会議・話し合いに活用するファシリテーション）
3. ファシリテーション各論Ⅱ
（授業に活用するファシリテーション）
4. ファシリテーション各論Ⅲ
（学校経営に活用するファシリテーション）

ファシリテーション各論 I の目次

1. うまいいかない会議の特徴
2. うまいいく会議とうまいいかない会議のプロセスの違い
3. 会議を活性化するための10ステップ
4. 総論の実践課題「自己紹介」の解説
5. 実践課題

ファシリテーション各論 I の目次

1. うまくいかない会議の特徴
2. うまくいく会議とうまくいかない会議のプロセスの違い
3. 会議を活性化するための10ステップ
4. 総論の実践課題「自己紹介」の解説
5. 実践課題

1. うまくいかない会議の特徴

- 意見が出ない
- 声の大きい人の意見が通る
- 話が迷走する
- 目的が達成できない
- 会議がだらだら終わらない

⇒「なりゆき任せ」の話合いだからです

⇒すべて「プロセス」の問題です

ファシリテーション各論 I の目次

1. うまくいかない会議の特徴
2. うまくいく会議とうまくいかない会議のプロセスの違い
3. 会議を活性化するための10ステップ
4. 総論の実践課題「自己紹介」の解説
5. 実践課題

2. うまくいく会議とうまくいかない会議のプロセス

会議の様子を観察してみましょう

ファシリテーター 3つのキーワード

- ① 「Why ? 」＝根拠を持って行動する
- ② 「プロセスを観る」
 - ー 外のプロセス
 - ー 内なるプロセス（思考・感情を観る）
- ③ 「安心・安全な場の確保」

2. うまくいく会議とうまくいかない会議のプロセス

2つの動画を比較します

学校での支援会議の場面
テーマ（コンテンツ）は同じ

プロセスは？

2. うまいくい会議とうまくいかなない会議のプロセス

話し合い観察チェック表

グループ名:

記録者:

開催日		予定時刻	
参加者人数・構成		実際に要した時間	
司会		記録係	
そもそも何のための会議なのか(目的)	外のプロセス	その日の成果物(会議で生み出す物)が明確にされていたか?(目標)	内なるプロセス 自分の思考・感情
話し合いのプロセス		良かった点・改善点	
:			
成果物			
場の雰囲気	良い・悪い・わからない(その理由は?)		
自分の気持ち	満足・不満足・わからない(その理由は?)		
総合評価	(/100点) (その理由は?)		

出典: 中野・三田地(2013)「ファシリテーター行動指南書」

2. うまくいく会議とうまくいかない会議のプロセス

ケース会議 シーン1

2. うまくいく会議とうまくいかない会議のプロセス

ケース会議 シーン2

ファシリテーターが入った場合

2. うまくいく会議とうまくいかない会議のプロセス

同じテーマ
違うのは
「プロセス」

プロセスが整えられていたのは？

具体的に何が違ったのでしょうか？

ファシリテーション各論 I の目次

1. うまいかない会議の特徴
2. うまい会議とうまいかない会議のプロセスの違い
3. 会議を活性化するための10ステップ
4. 総論の実践課題「自己紹介」の解説
5. 実践課題

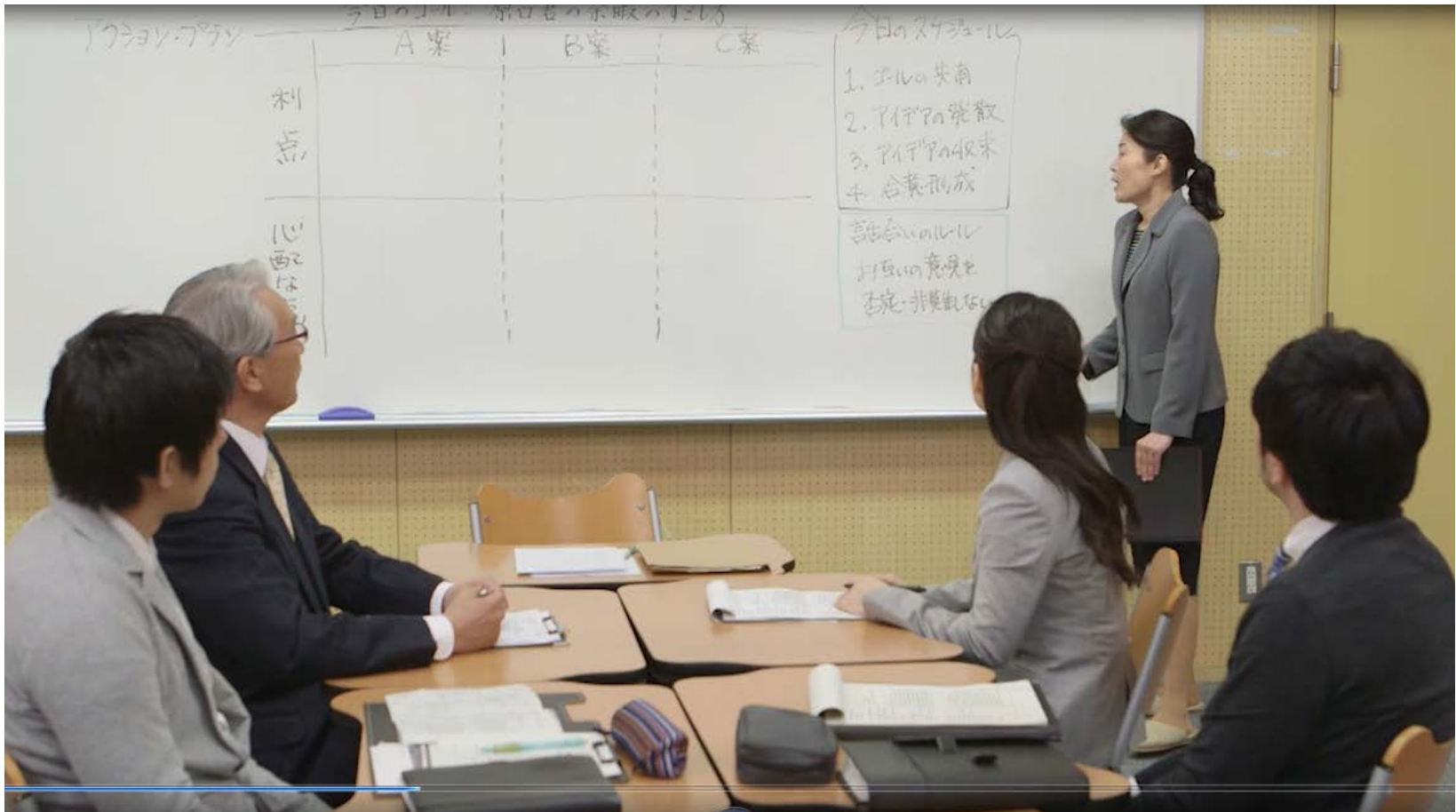
3. 会議を活性化するための10ステップ

10のステップ	事前に考慮したこと	実際の結果
1. 会場となる部屋をチェックした（机の配置など）		
2. 記録ボードの設置		
3. 付箋・メモ用紙の準備		
4. その日のスケジュールとゴールを記録ボードに書いた		
5. 役割分担を決めた		
6. 話し合いのルールを決めた		
7. ライブ・レコーディングをした		
8. 必要な意見は十分出された		
9. 意見が対立したときも理由を尋ね、参加者が皆で納得・合意した		
10. 最終的な行動計画ができた		

出典：三田地（2007）「特別支援教育“連携づくり”ファシリテーション」

3. 会議を活性化するための10ステップ

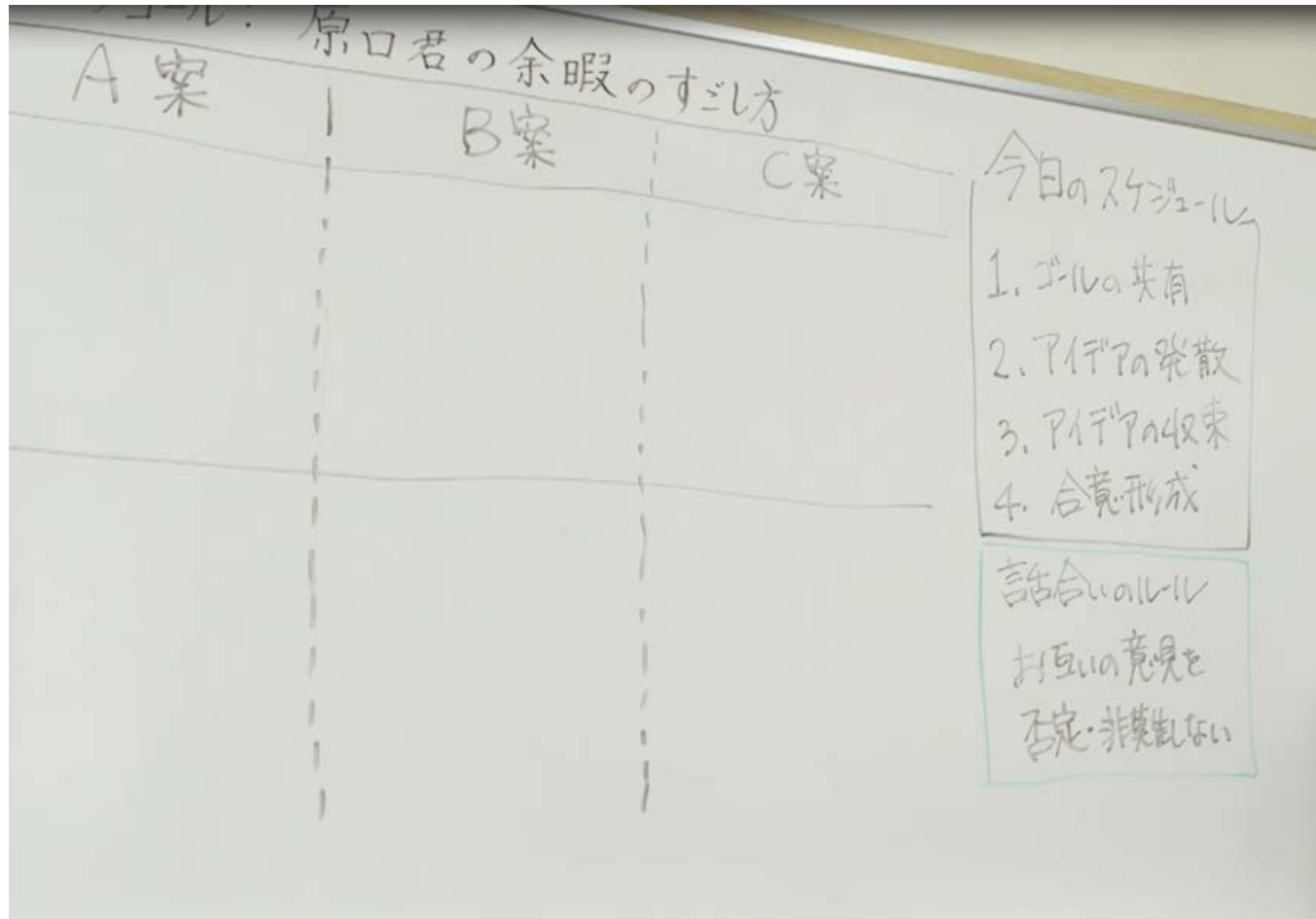
ステップ1：会場となる部屋をチェックした (机の配置など)



3. 会議を活性化するための10ステップ

ステップ2：記録ボードの設置

⇒ステップ7：ライブ・レコーディングの下準備



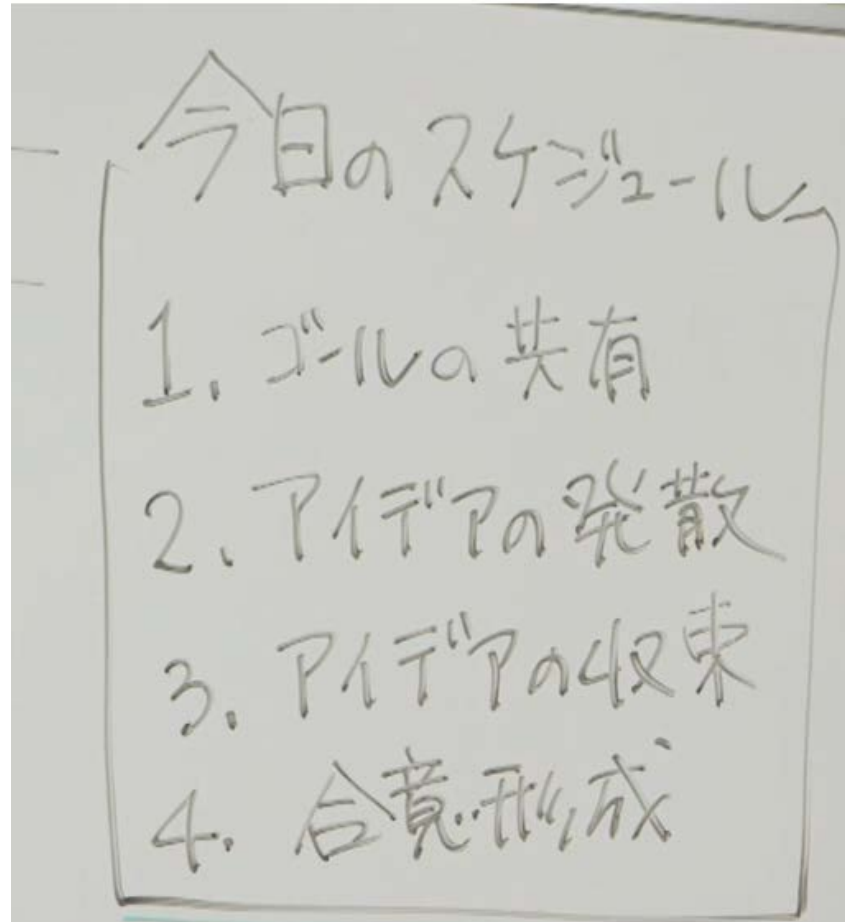
3. 会議を活性化するための10ステップ

ステップ3：付箋・メモ用紙の準備 ⇒個人作業（Thinking time）



3. 会議を活性化するための10ステップ

ステップ4：その日のスケジュールとゴールを記録ボードに書く



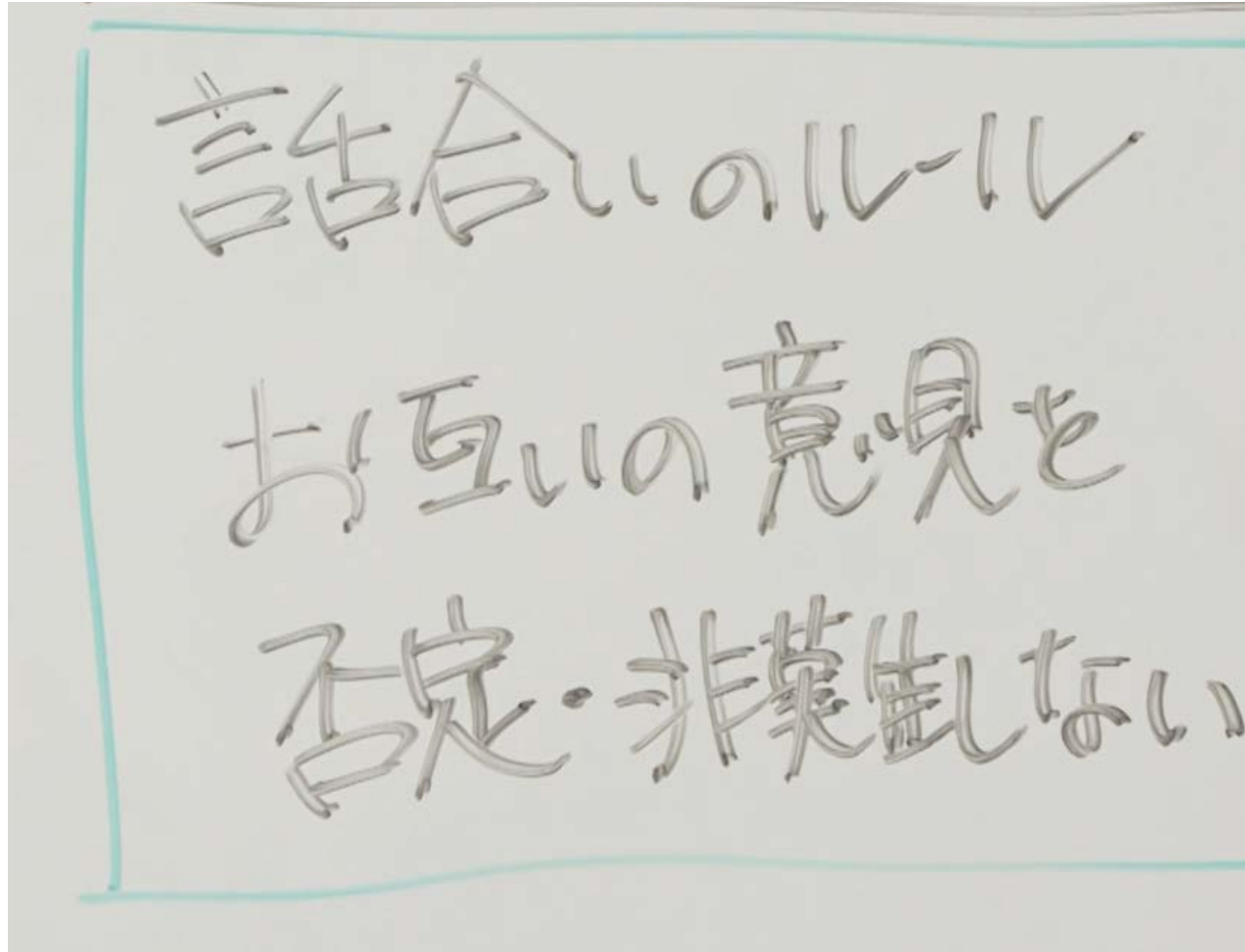
3. 会議を活性化するための10ステップ

ステップ5：役割分担を決める

- ファシリテーター
- 司会
- 記録（ライブ・議事録）

3. 会議を活性化するための10ステップ

ステップ6：話合いのルールを決めた



3. 会議を活性化するための10ステップ

ステップ7：ライブ・レコーディング



3. 会議を活性化するための10ステップ

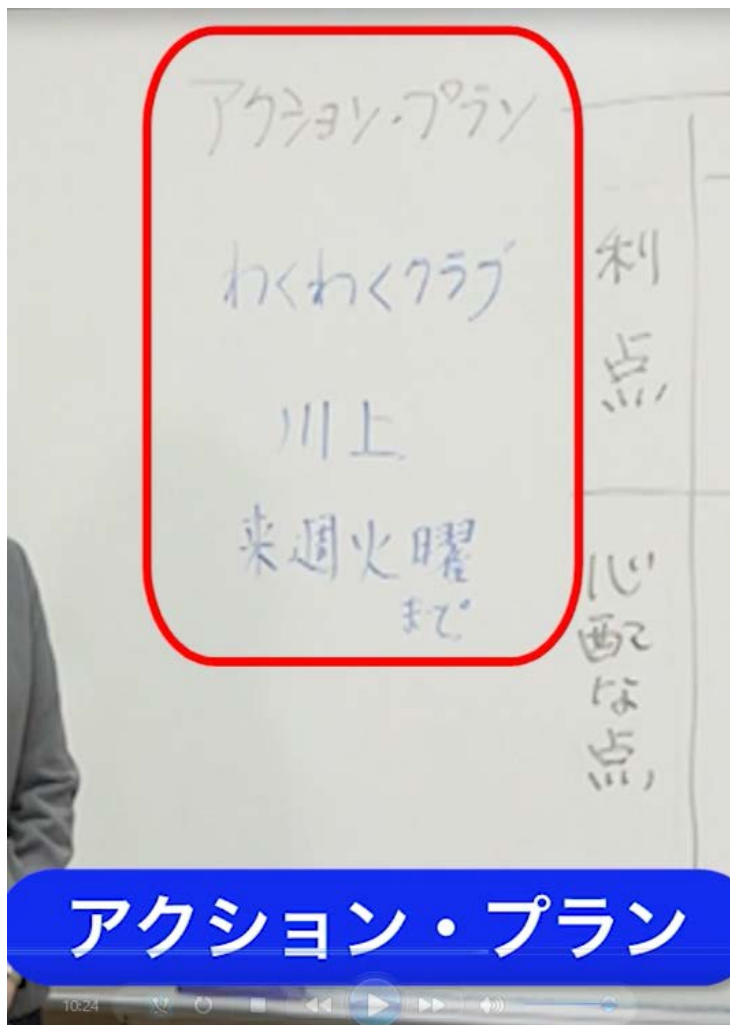
ステップ8：必要な意見は全部出された

ステップ9：意見が対立したときも理由を
尋ね、皆が合意・納得した

アイデアの収束			
ゴール：原口君の余暇の過ごし方			
	A案	B案	C案
利点	人手がある	時間的に よい	母受け入れ
心配な点	誰が対応？		母 仕事をかえた

3. 会議を活性化するための10ステップ

ステップ10：最終的な行動計画ができた



- 誰が
- いつまでに
- 何をする

ファシリテーション各論 I の目次

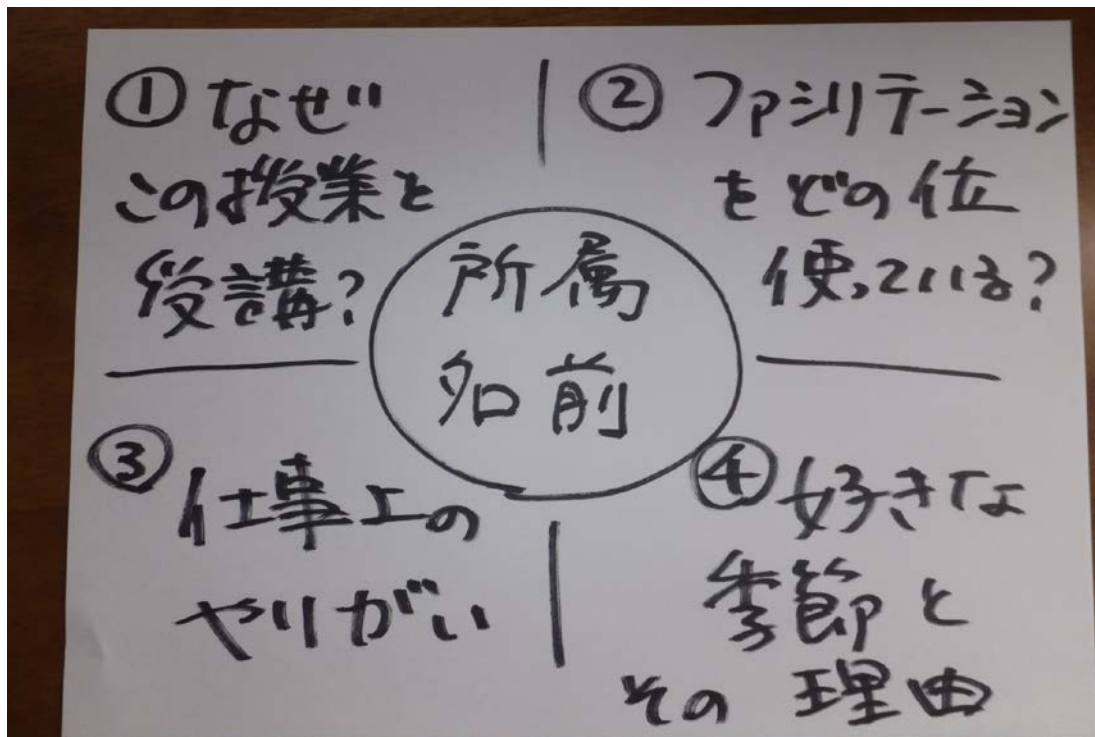
1. うまいいかない会議の特徴
2. うまいく会議とうまいいかない会議のプロセスの違い
3. 会議を活性化するための10ステップ
4. 総論の実践課題「自己紹介」の解説
5. 実践課題

4. 総論の実践課題「自己紹介」のプロセスの解説

①なりゆき任せの自己紹介

参加者が集まって「はい、では自己紹介しましょう」

②プロセスを整えた自己紹介



<やり方のポイント>

- ・ テーマを決める
- ・ 考える時間を持つ
- ・ 文字を見せながら発表する

4. 総論の実践課題「自己紹介」のプロセスの解説

この中のどれを活用していたでしょう？

10のステップ	事前に考慮 したこと	実際の結果
1. 会場となる部屋をチェックした（机の配置など）		
2. 記録ボードの設置		
3. 付箋・メモ用紙の準備		
4. その日のスケジュールとゴールを記録ボードに書いた		
5. 役割分担を決めた		
6. 話し合いのルールを決めた		
7. ライブ・レコーディングをした		
8. 必要な意見は十分出された		
9. 意見が対立したときも理由を尋ね、参加者が皆で納得・合意した		
10. 最終的な行動計画ができた		

出典：三田地（2007）「特別支援教育“連携づくり”ファシリテーション」

5. 総論の実践課題「自己紹介」のプロセスの解説

①なりゆき任せの自己紹介

- 準備なし
- テーマなし
- 突然始まる
- 視覚刺激なし

②プロセスを整えた自己紹介

- 個人作業で準備
- テーマは設定
- 考える時間を持つ
- 視覚刺激あり

⇒プロセスを整えると何が変わる？

5. 総論の実践課題「自己紹介」のプロセスの解説

①なりゆき任せの自己紹介

- 発表するとき
慌てて発表
何を発表すればいいか
練られていない
- 聞いているとき
自分が何を話そうか
考えている
= 聞いていない

②プロセスを整えた自己紹介

- 発表するとき
発表内容は手元にある
- 聞いているとき
すでに発表内容は決まっているので、しっかり聞く確率は上がる
同じテーマなので比較もできる

人の行動がこんなに変わる！！

ファシリテーション各論 I の目次

1. うまいいかない会議の特徴
2. うまいいく会議とうまいいかない会議のプロセスの違い
3. 会議を活性化するための10ステップ
4. 総論の実践課題「自己紹介」の解説
5. 実践課題

5. 実践課題「会議を活性化する10ステップ」

自分の会議で**実践**してみましょう！

10のステップ	事前に考慮 したこと	実際の結果
1. 会場となる部屋をチェックした（机の配置など）		
2. 記録ボードの設置		
3. 付箋・メモ用紙の準備		
4. その日のスケジュールとゴールを記録ボードに書いた		
5. 役割分担を決めた		
6. 話し合いのルールを決めた		
7. ライブ・レコーディングをした		
8. 必要な意見は十分出された		
9. 意見が対立したときも理由を尋ね、参加者が皆で納得・合意した		
10. 最終的な行動計画ができた		

出典：三田地（2007）「特別支援教育“連携づくり”ファシリテーション」

5. 実践課題「会議を活性化する10ステップ」

ファシリテーション
プロセスを整える

実行しなければ
プロセス = 人の行動は変わりません！

ファシリテーション各論 I の目次

1. うまいいかない会議の特徴
2. うまいいく会議とうまいいかない会議のプロセスの違い
3. 会議を活性化するための10ステップ
4. 総論の実践課題「自己紹介」の解説
5. 実践課題

ファシリテーション各論 I 引用文献など

- ・堀公俊（監修）三田地真実（2007）「特別支援教育連携づくりファシリテーション」金子書房

- ・中野民夫（監修）三田地真実（2013）「ファシリテーター行動指南書」ナカニシヤ出版

■ 動画の出典

日本学術振興会科学研究費基盤研究（C）

課題番号 17K04945

研究代表者：三田地真実

「支援会議を活性化するためのファシリテーションの効果：ビデオ研修プログラムの開発」

ファシリテーション動画の全体構成

1. ファシリテーション総論
2. ファシリテーション各論Ⅰ **（本動画）**
（会議・話し合いに活用するファシリテーション）
3. ファシリテーション各論Ⅱ
（授業に活用するファシリテーション）
4. ファシリテーション各論Ⅲ
（学校経営に活用するファシリテーション）

To be continued !